

事務局だより

平成 30 年 3 月 1 日
第 4 号
岩手県学校保健会
養護教諭部会事務局発行



平成30・31年度「研修係」募集

【対象】 盛岡・雫石・滝沢・矢巾・紫波地区の 小学校、中学校、県・市・私立

【募集人数】 1名

【研修係の役割】

総務部が担当する「実践研究に関する研修会」の推進に関わる仕事をお願いします。
会議は年間3～4回程度行います。

【応募方法】 地区理事から配信される「FAX 送信票（添書不要）」で、事務局長（盛岡市立巻堀小学校）石川千賀子（019-682-2304）まで送信してください。

【応募締切】 平成 30 年 3 月 23 日（金）

東日本大震災支援対策委員の募集

【対象・募集人数】 盛岡・雫石・滝沢・矢巾・紫波地区から 6名
沿岸地区から 2名

☆東日本大震災支援対策委員会の活動は、30年度のみとなります。

【応募方法】 地区理事から配信される「FAX 送信票（添書不要）」で、事務局長（盛岡市立巻堀小学校）石川千賀子（019-682-2304）まで送信してください。

【応募締切】 平成 30 年 3 月 23 日（金）

お知らせ ～本の寄贈について～

この度、岩手県立大学 遠藤巴子先生より、著書を寄贈いただきました。

「岩手の養護教諭 - 次代への伝言 -」 出版：盛岡出版コミュニティー

本部会では、こちらの本の貸出を行います。貸出を希望される方は、下記までご連絡ください。送料は、ご負担くださるようお願いいたします。

（連絡先：盛岡市立米内小学校 菊地 玲子 TEL019-667-2370 FAX019-667-2839）

訃報

すでにご承知の方もいらっしゃると思いますが、本部会の養護教諭研究大会（H15・17）でもご講演いただきました 千葉大学教育学部教授 岡田加奈子先生が、昨年 12 月 10 日にご逝去されました。

ご生前のご尽力に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

3 月 31 日（土）に執り行われる「岡田加奈子先生との思い出の会」（千葉大学けやき会館）へのご供花をお考えの方は、入駒一美先生が取りまとめくださいますので、3 月 20 日（火）までにご連絡ください。

※ご香典、お供物は受け付けていません。（連絡先：入駒一美 ptf57-irikoma-kazumi@iwate-ed.jp）

「東日本大震災に係わる会員の皆様の現状伺い」のまとめ

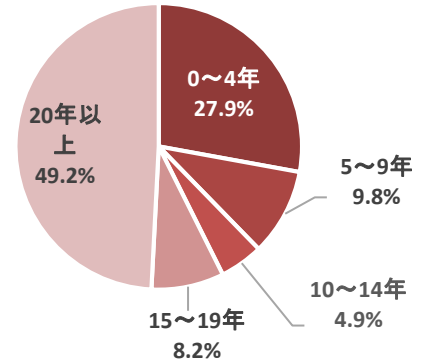
全会員に「東日本大震災に係わる会員の皆様の現状伺い」への御協力をお願いしたところ、多くの方から御協力を得られました。大変感謝しております。今回お寄せいただいた声をまとめましたので御報告いたします。

回答いただいた総数は197人（昨年199人）。そのうち困り感があると回答したのは61人（31.0%）。内訳は沿岸41人、内陸20人でした。

「困っていることがある」と回答した会員の経験年数は右の円グラフのとおりです。困っている内容として多く挙げられたのは「児童生徒の心身のケアの必要性を感じる」「PTSD様症状がみられる児童生徒がいる」「知識やスキルの不安がある」の項目です。

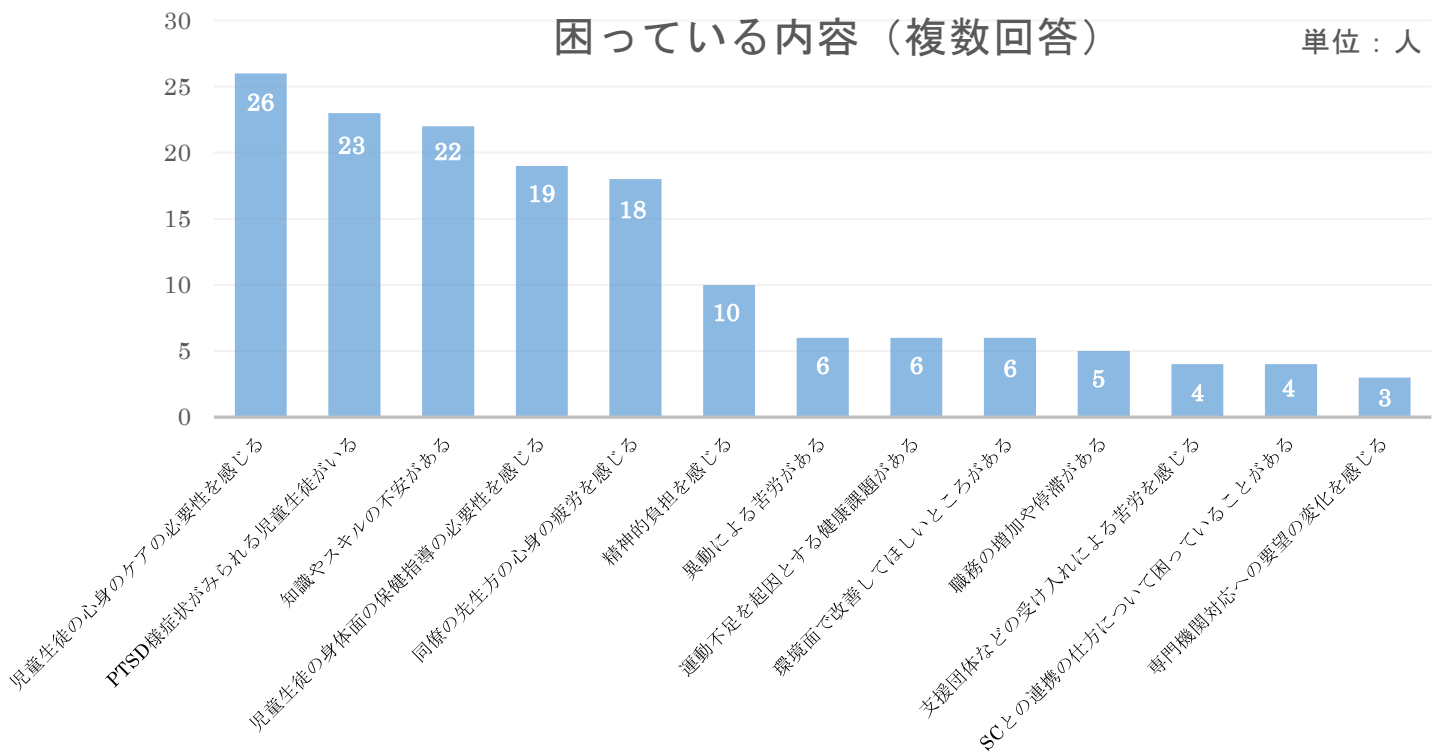
「児童生徒の心身のケアの必要性を感じる」は4年連続で1番多く挙げられており「PTSD様症状がみられる児童生徒がいる」「知識やスキルの不安がある」は前年度と比べ多く挙げられた項目でした。

「困っていることがある」と回答した会員の経験年数



困っている内容（複数回答）

単位：人



【困っていることの具体的内容】

★沿岸の方から★

- ・大きな音、警報、避難訓練に恐怖を感じる子供がおり、個別に対応している。
- ・地域、保護者の不安感が震災を経験していない子供にも影響していると感じる。
- ・狭い校庭を大勢の子供が走り回るので、けがが多い。また、肥満やむし歯が多く、保健指導をしている。

★内陸の方から★

- ・転入児童生徒について、震災経験の情報がうまく伝わってこないことがある。
- ・災害時の対応について不安がある。研修が必要と感じている。

平成29年11月16日（木）・17日（金） 三重県津市 三重県総合文化センター

1. 記念講演「学校事故対応に関する指針とこれからの学校安全」

講師 東京学芸大学教育学部 渡邊 正樹氏

災害における2つの危険として、ハザード(例えば包丁や車)とリスク(例えば包丁の危ない使い方、飲酒運転)があり、学校におけるハザード自体を取り除くには安全管理が必要であり、リスクを低下させるには主に安全教育において児童生徒の危険予測・回避能力高めることが必要であると学びました。

傷病者の呼吸確認の際に気をつけなければいけないのが、顎や鼻が息をしているかのような動きをする「死戦期呼吸」であり、呼吸をしているかどうか迷ったら心肺蘇生を行うことを再確認しました。また、AEDの使用上の注意として、夜間の部活動や行事等でもAEDが使用できる場所に置いておくこと、低温下にAEDを置いておくとバッテリーの消耗が早いこと、使用中に周囲の騒音が大きいとAEDからの音声指示を聞き逃す危険があるというお話がありました。

「学校事故対応に関する指針」では、①事故発生の未然防止及び事故発生に備えた事前の取組②事故発生後の取組③調査の実施④再発防止策の策定・実施⑤被害児童生徒等の保護者への支援 の大きく5つの手順があり、特に被害にあわれた保護者の心情に配慮し、説明が矛盾することなく対応窓口を一本化し事実を正確に伝えることが重要であると学びました。

2. 研究協議

(1) 第2課題「保健管理」

〈研究発表者〉 三重県松阪市立豊田小学校 養護教諭 小倉裕子氏
名古屋市立若葉中学校 養護教諭 多田実香氏
信州大学教育学部附属特別支援学校 養護教諭 下村 智恵子氏
〈講師〉 公益財団法人 日本学校保健会 専務理事 弓倉 整氏
〈指導助言者〉 岩手県教育委員会保健体育課 指導主事 高橋 雅恵氏



研究発表の中で、健康診断に係る保健指導では、図書館司書と協力し、読み聞かせを行いながら事前指導したり、健康診断の結果通知書に疾患名を説明したプリントを配布したりすることで、保護者の不安軽減を図る取組がありました。

また、区ごとの養護教諭会で食物アレルギーに関する校内体制や保健教育について共同研究を行い、対象児童生徒の一覧表を作ったことで、調理実習や宿泊行事の時にすぐに確認することができ、担任外の教職員が給食指導に入った際にも対応をすぐに確認できたとの発表がありました。区内のヒヤリハット事例を集め、各学校の養護教諭や校内研修で確認をしたため今後の業務に活かしていきたいとの発表でした。

特別支援学校での感染症の予防及び発生時の対応について、朝だけではなく授業中や活動中など、学校生活常時において健康観察を行い、周辺地域の感染症情報の収集を行い、迅速で正確な状況把握と報告を行っていました。

(2) 第7課題「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」

〈研究発表者〉 静岡県立静岡商業高等学校 養護教諭 杉山祐美氏
三重県伊勢市立倉田山中学校 教諭 多田ちか氏
広島市立可部小学校 主幹教諭 津島正司氏
〈講師〉 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室 室長 嶋根 卓也氏
〈指導助言者〉 愛知県立鳴海高等学校 教頭 丸山 洋生氏

発表校では、児童生徒の実態を踏まえ、生涯を通じて適切な意思決定と行動選択ができるための保健教育を行うことを目的とし、薬物乱用防止教室を行っていました。飲酒や喫煙に関する意識、禁止薬物使用についての考え、友人等が禁止薬物を使用したら周囲の大人に相談できるか等、アンケート結果を参考にしながら、保健指導の準備をすすめていました。生徒達自身の心のブレーキとして、家族、薬物に関する知識、友人が多くを占めており、その他として、部活・好きな事・将来の夢・倫理観・プライド等が挙げられていました。また、学年ごとに到達目標をたてテーマをしぼり、各教科・委員会・部活動等、多面的に薬物乱用防止教育に取り組んでいました。児童生徒達はロールプレイにおいて薬物使用の断り方を児童が他の児童の断り方を聞くことでより効果的な断り方を学習し合っていました。